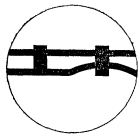


土木学会名古屋大会報告



第47回通常総会
第16回年次学術講演会
会員懇親会
見学会（A～D班）

土木学会中部支部

第47回通常総会

昭和36年5月27日9時より名古屋工業大学講堂で開催し、出席会員115名、委任状890名、合計1005名（9時現在）をもって法定数677名を突破したので総会が成立、議事に入る。

議事 1. 昭和35年度事業報告（35.4.1～36.3.31）

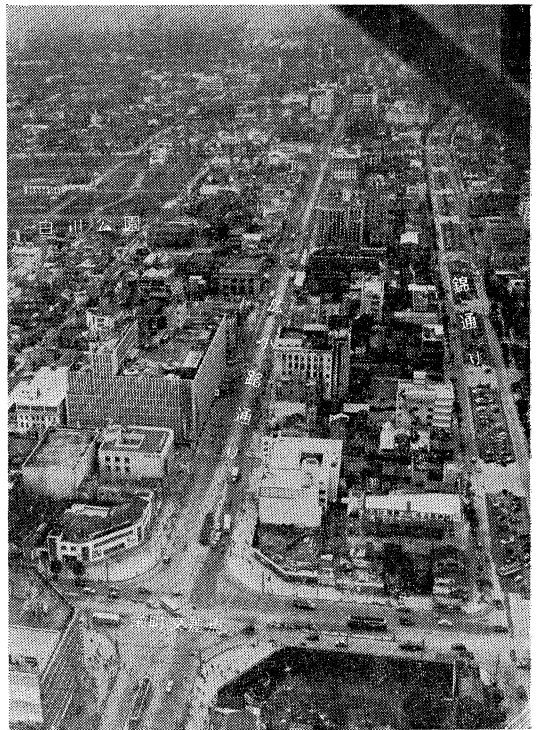
尾之内総務理事より説明

会長	沼田 政 矩		
副会長	富 樫 凱 一	滝 山 養	
専務理事	末 森 猛 雄		
理 事	阿 部 一 郎	小 倉 宏 三	
	尾之内 由紀夫	岡 本 東 一 郎	
	川 勝 四 郎	川 村 満 雄	
	小 西 一 郎	佐 藤 肇	
	田 中 行 男	林 泰 造	
	八十島 義之助		

(1) 理事改選（35.5.27, 常議員会で決定）

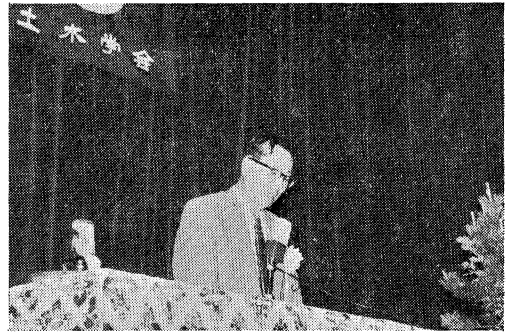
	(退 任)	(留 任)	(新 任)
会 長	田中 茂美		沼田 政矩
副会長	本間 仁	富樫 凱一	滝山 養
専務理事		末森 猛雄	
理 事	井口 昌平	尾之内由紀夫	阿部 一郎
	小野竹之助	川勝 四郎	小倉 宏三
	西嶋 国造	川村 満雄	岡本東一郎
	比田 正	田中 行男	小西 一郎
	藤村久四郎	八十島義之助	佐藤 肇
			林 泰造

総会会場風景



（中部日本新聞社提供）

吉川支部長のあいさつ



決算報告をする末森専務理事



(2) 役員登記

理事変更登記 昭和35年8月8日

(3) 通常総会および役員会

(1) 通常総会（35.5.28, 早稲田大学大隈小講堂）

出席者：140名，委任状718名，計858名，有権者13455名（法定数673名）

1) 昭和34年度事業報告承認

2) 昭和34年度決算報告承認

3) 名誉員の推挙 次の8氏を可決

池田 嘉六君 菊地 英彦君 斉藤 静脩君

田井 九一君 高橋 甚也君 永田 民也君

村山喜一郎君 山田 隆二君

4) 土木賞の授与

土木学会賞：山口 柏樹君 奥村 敏恵君

土木学会奨励賞：千秋 信一君 秋元 保君（共同）

5) 新任役員の紹介（前掲）

6) 田中会長講演「交通問題と土木事業」

(2) 常議員会

1) 定例（35.5.27）

①昭和35年度役員改選可決，②昭和34年度事業報告可決，③昭和34年度決算報告可決，④規則第35条附則「土木賞授与規程」改正の件可決，⑤昭和34年度土木賞授与者を承認（前掲），⑥通常総会に推挙の名誉員8氏の推薦を承認，⑦その他。

2) 臨時（35.9.7）

①規則第5条特別員の級別の一部ならびに代表者の員数改正可決，②規則第11条特別員の級別改正にともなう会費の一部改正可決。

3) 臨時（36.1.30）

①規則第5条特別員の級別の一部改正可決，②規則第11条特別員の会費の一部改正可決。

4) 定例（36.3.30）

①昭和36年度事業計画可決，②昭和36年度収支予算可決。

(3) 理事会

定例（35.4.25～36.3.22，12回）

①協議事項106件，②報告事項 各種委員会およびその他。

臨時（36.1.16）

①論文集発行計画に関する件，②東京湾輸送調査に関する委託研究の件。

(4) 支部長会議（36.2.9）

①理事会の決定事項を報告承認，②支部交付金に関する事項および会員増加促進に関する事項を承認。

(4) 各種委員会

(1) 会誌編集委員会

委員長 斉藤 義治 副委員長 堺 毅

委員および幹事 34名

1) 本委員会12回，小委員会12回，土木学会誌45巻4号～46巻3号12冊，登載原稿：論説4，解説10，報告47，寄書9，資料6，講演8，講座8，その他論文要旨，文献抄録，特許紹介，ニュース，文献目録等。3) 発行ページ956ページ，4) 発行部数187030部。

(2) 文献調査委員会

委員長 久野 悟郎 委員および幹事 20名

1) 委員会12回，外に各部門打合せ随時，2) 学会誌45巻4号～46巻3号に文献抄録93ページ，文献目録67ページを登載，3) 文献カード整理。

(3) 論文集編集委員会

委員長 最上 武雄 委員および幹事 38名

1) 委員会，部会長会7回，各部会6回，2) 総合論文集

（68，69，70，71，72，73の各号）37編，267ページ，発行部数86650部，3) 別冊論文集（68-1，69-1・2・3，70-1，71-1・2・3・4，72-1・2・3，73-1・2の各号）14編，332ページ，発行部数9800部。

(4) 水理委員会

委員長 伊藤 剛 委員および幹事 50名

1) 委員会（35.5.27，10.26，36.1.12），2) 第5回水理研究会講演会（35.5.27，早稲田大学），3) 「水理学研究の現況」第9集35年11月刊行125ページ，水理研究会員に配布，4) 本間委員（35.8.22～27）オランダヘーグにおけるIAHR，7名 Coastal Engineering Conference に出席。

(5) 橋梁・構造委員会

委員長 福田 武雄 委員および幹事 17名

1) 第7回「鋼構造に関する研究」発表会を35.10.7～8開催し，同時に講演集を刊行。

(6) コンクリート常置委員会

委員長 国分 正胤 委員および幹事 50名

1) 委員会（35.5.28，10.31，36.2.28）開催され，JISに関する事項，異形鉄筋試験研究，コンクリート標準示方書に関する事項，ACI支部東京設置に関する事項，2) 下部組織にフライアッシュ小委員会，プレストレストコンクリート小委員会，グラウト専門委員会をおき，おのおの研究中。

(6.1) フライアッシュ小委員会

委員長 国分 正胤 委員 19名

1) 委員会（35.4.19，9.1，11.11，36.1.2，3.31）開催され，前年に引き続き耐久性試験の方法を継続研究，論文集発行を計画，2)（35.4.19）シンポジウム開催。

(6.2) プレストレストコンクリート小委員会

委員長 国分 正胤 委員および幹事 25名

1) 昭和30年度土木学会制定プレストレストコンクリート設計施工指針改訂のため委員会を設け（35.5.24～36.3.20）21回開催し改訂案につき審議中。

(6.3) グラウト専門委員会

委員長 国分 正胤 委員および幹事 24名

1)（35.9.28～36.3.3）数回開催し，P Cグラウトのブリージング率および膨張率試験方法につき委託研究として審議中。

(7) 海岸工学委員会

委員長 本間 仁 委員および幹事 32名

1) 委員会（35.6.16，11.12，36.2.17）開催，2) Coastal Engineering in Japan Vol. 3 を刊行，3) チリ地震およびチリ津波について調査を行なう，4) 第6回海岸工学講演会を（35.11.10～11.12）大阪において開催，同時に講演集を刊行，5) その他国際会議に関する事項。

(8) 八郎潟干拓水理研究特別委員会

委員長 本間 仁 委員および幹事 12名

1) 農林省委託研究として「八郎潟干拓の船越水道河口計画施工に関する研究」を（35.6.16～36.3.17）において現地調査，水理実験を行ない研究中。

(9) 耐震工学委員会

委員長 那須 信治 委員 23名

1) 委員会（35.4.22～36.2.27）10回開催，2)（35.7.11～7.18）東京および京都において開催された第2回世界地震工学会議の実施に協力，3) 英文「日本における土木構造物の耐震設計について」を刊行，4) 地震工学 Training Center に協力，5)（35.11.7～8）に第4回地震工学研

究発表会を開催、同時に講演会パンフレットを刊行、6) その他地震工学の国際関係に関する事項。

(10) 構造物耐震設計研究委員会

委員長 沼田 政矩 委員および幹事 42 名

1) 国鉄委託研究をして(35.5.26~36.3.2)委員会および幹事会を数回開催し、国鉄における土木構造物の地震に対する計画設計について研究中。

(11) 災害対策研究委員会

委員長 岡田 信次 委員および幹事 34 名

1) 前年に引続いて風水害対策につき研究を進め、数回の幹事会により調査資料を収集し「土木工学的に見た伊勢湾地域における高潮対策の研究」をテーマとして研究中。

(12) 土木技術者資格研究委員会

委員長 鈴木 雅次 委員および幹事 23 名

1) 委員会(35.4.27~12.23)9回開催し、土木士制度制定に関する事項につき研究中。

(13) 海外連絡委員会

委員長 田中 茂美 委員および幹事 16 名

1) 本委員会は、土木工学および技術に関し海外との交流紹介、土木に関する国際会議等の事項を取扱うを目的として(35.12.19)発足した。

(14) 出版企画委員会

委員長 佐藤 寛政 委員および幹事 27 名

1) 本委員会は学会誌、論文集を除く学会刊行物の出版計画、監修を目的として(35.12.21)以来常任委員会数回を開催して来年度計画につき審議中。

(15) 土木賞委員会

委員長 沼田 政矩 委員および幹事 18 名

1) 新しく規定された土木賞授与規程および運営内規のもとづき、35年度土木賞選考につき主査および幹事会を数回開催し審議中。

(16) 長大橋梁および高張力鋼鉄道橋研究委員会

委員長 田中 豊 委員および幹事 28 名

1) 昭和28年以来国鉄委託研究として継続し、本年度溶接鋼鉄道橋製作示方書の作成を以て終了した。

(17) 東京湾沿岸地域における貨物流動調査委員会

委員長 沼田 政矩 委員および幹事 28 名

1) 運輸省第二港湾建設局の委託研究として、東京湾沿岸地区の海陸輸送諸施設の将来計画を研究する、2) 本年度は沿岸地域の貨物流動現況の調査報告をまとめるために作業中。

(18) その他の常置委員会

①土木振興対策委員会、②大正以降土木史編集委員会、③製図規格委員会、④土木工学叢書委員会、⑤土木工学ハンドブック改訂委員会、⑥土木賞規約制定委員会、⑦海岸保全施設設計小委員会。

(5) 本部の行事

(1) フライアッシュ シンポジウム(35.4.19, 土木学会会議室) 演題 10 題, 参加約 80 名

(2) 第 5 回水理研究会講演会(35.5.27, 早大隈小講堂) 流出に関するもの 15 題 } 参加約 160 名
サージングに関するもの 3 題

(3) 総会会員懇親午餐パーティー(35.5.28, 早大隈会館) 参加 139 名

(4) 第 15 回年次学術講演会(35.5.28~29, 早稲田大学) 一般講演 221 題, 参加延約 1500 名, 総合講演 6 題, 参加延約 1250 名

(5) 見学会(35.5.30~31)

A班 千葉港周地, 房総一周 参加 77 名
B班 都下鉄道工事 " 108 名
C班 京浜工業地帯 " 44 名

(6) コンクリート懇談会(35.5.28, 早大隈会館) コンクリート標準示方書の討議 参加 58 名

(7) 夏期講習会(35.8.25~27, 虎ノ門共済会館) 「最近の道路問題と高速道路」12 題 参加 569 名
見学会(35.8.27)

1班 京葉道路, 土研千葉支所 参加 50 名
2班 横浜, 湖南各電路, 国鉄根岸線 " 131 名

(8) 関係学協会と共催の行事

①第 2 回世界地震工学会議(35.7.11~18) 東京産経会館, 京都国際文化会館, 参加 325 名(日本 211 名, 海外 26 カ国 114 名)

②第 10 回応用力学連合講演会(35.9.1~3, 日本大学において)

③第 4 回材料試験連合講演会(35.9.10, 京都大学において)

④第 7 回橋梁・構造工学研究発表会(35.10.7~8, 日本建築学会において)

演題 18 題 参加延 250 名

⑤第 7 回風のシンポジウム(35.11.4, 日本建築学会において)

一般講演 18 題 } 参加 70 余名
特別講演 2 題

⑥第 2 回原子力研究総会発表会(36.2.15~18, 神田学士会館において)

⑦秋のエキスカンション(35.11.1~6, 日本建設機械化協会共催)

東海道視察バス旅行

東班(11.1~3)参加者 121 名(学会 82, 協会 39)

西班(11.4~6)参加者 104 名(学会 77, 協会 27)。

⑧第 4 回地震工学研究発表会(35.11.7~8, 土木学会) 研究発表 3 題 } 参加者延 80 名

特別講演および報告 6 題

見学会 京葉道路, 土研千葉支所 参加者 15 名

⑨第 7 回海岸工学講演会(35.11.10~11, 大阪商工会館) 演題 34 題 参加者 延約 300 名

見学会(35.11.12) 大阪, 尼ヶ崎, 神戸各港 参加者 130 名

(6) 支部行事

(1) 北海道支部 支部長 岩本 常次

1) 役員会および幹事会(35.7.2~36.3.30)10 回,

2) 講演会第 1 回(35.9.8) ルッツ・エルレンバハ博士 「ドイツの道路について」参加者約 120 名, 第 2 回(36.1.26)3 題, 参加者 200 名, 研究発表会(36.2.27)23 題 参加者 150 名, 講習会(36.2.28)3 題 200 名。

3) 見学会(35.8.26)北海道開発局管下の運河, ダムの見学 参加者 120 名

(2) 東北支部 支部長 樋浦 大三

1) 見学会(35.7.8) 仙台~白河間国道および吾妻有料道路見学 参加者 70 名。

2) 土質講習会(35.7.12~13)7 題, 見学会 東北電力火力発電所工事

3) 技術研究発表会(36.3.3)11 題

(3) 中部支部 支部長 橋本 規明

- 1) 役員会 (35.4.23~36.3.22) 4回
 2) 幹事会 毎月1回
 3) 支部大会 (35.10.23) 静岡市および県下記念講演2題
 参加者100名
 4) 研究発表会 (35.11.22) 名古屋工業大学, 題目16題,
 参加者120名
 5) 講習会 (36.3.17~18) 名古屋工業大学「土と基礎の
 新工法」10題, 映画2題, 見学 中央線複線立体化工事,
 参加者395名
 6) 講演会
 ①(35.6.1) PC関係2題 参加者250名, 映画 嵐山
 橋の工事記録, ②(35.8.23) 東海道新幹線, 名神高速
 道路2題, 参加者120名, 映画 近鉄名古屋線軌間拡
 中工事記録, ③(36.1.24) 台湾および欧米視察2題,
 参加者60名
 7) 見学会
 ①(35.5.22) 閃電読書第2水力発電所, 参加者81名
 ②(35.7.15) 建設省海岸堤防復旧工事, 参加者160名
 ③(35.9.27) 愛知用水東郷調整地, 矢田川, サイホン
 参加者108名, ④(35.10.7) 石川県小松飛行場基地拡
 張工事, 農林省加賀三湖干拓工事 参加者44名, ⑤
 (35.11.1~3) 東班(11.4~6) 西班, 東海道バス旅行
 参加者14名, ⑥(36.2.28) 東海製鉄KK建設現場 参
 加者100名。
 3) 学生見学会
 ① 信州大学 1-1 (35.5.13) 名古屋市内鍋屋上野浄水場
 その他, 参加者24名(3年生), 1-2(35.5.12~14)東京
 都内諸施設, 参加者20名(4年生), ② 金沢大学
 (35.11.25) 北陸トンネル第2工区, 参加者38名, ③
 岐阜大学(35.12.1) 愛知用水兼山取入口矢田川サイホ
 ン, 参加者45名, ④ 名古屋工業大学(36.1.28) 名古
 屋市上下水道施設, 参加者62名。
(4) 関西支部 支部長 近藤 勇
 1) 幹事会 毎月1回
 2) 商議員会 (35.6.28~36.3.23) 3回
 3) 第33回通常総会 (35.5.20, 中央電気倶楽部) 参加者
 64名, 記念講演1題, 映画2題, 懇親会
 4) 講演会および講習会
 ① (35.5.17) PC コンクリート工法(ディビダーク工
 法) 講演会 大阪クラブ 参加者130名, ② (35.6.13)
 キャンベル教授 学術講演会, 好文倶楽部 「材料の破壊
 ならびに疲労強度に対する極値理論の応用」参加者41
 名, ③ (35.9.28) 盛土の締固め施工に関する講習会,
 大阪府職員会館4題, 実演, 大阪機械整備事務所, 参
 加者540名, ④ (35.11.10~12) 第7回海岸工学講演
 会(本部に掲載につき略す), ⑤ (35.11.13) 支部年次
 学術講演会 大阪工業大学, 一般講演64題, 特別講演
 2題, 参加者258名, ⑥ (36.1.18) 海外事情 講演会
 農林会館, 出題3題, 参加者59名, ⑦(36.2.15~16)
 高速度計算機の土木工学への応用, 講習会, 大阪府職
 員会館, 題目7題, 参加者291名, ⑧(36.3.28~29) 海
 岸工学に関する講習会, 大阪府職員会館, 題目13題,
 参加者260名, ⑨ (36.3.30~31) 「河川堤防における
 土質工学上の諸問題とその対策」講習会, 題目10題,
 参加者147名
 5) 技術講座1号 (35.11.19~21) 大阪市立大学, 参加者
 285名, 2号 (35.11.30・12.7・14) 京都大学, 参加者

- 111名, 3号(36.1.30~2.6) 三和銀行谷町支店, 参
 加者93名。
 6) 工事研究会, ①(35.11.8)「飛行場」大阪国際空港内,
 題目4題, 参加者40名, ②(36.2.25)「パイル」大阪
 建設会館, 題目14題, 参加者453名。
 7) 見学会, 第1回(35.7.12) 第二阪神および大阪環状線
 安治川橋梁, 大阪高速鉄道四号線工事, 参加者326名,
 第2回(35.9.30) 大野ダム, 脇谷橋50名, 第3回(35.
 10.7~8) 北陸トンネル工事30名, 第4回(35.10.29)
 名神高速道路山科舗装工事, 参加者91名。
 8) 学生見学会, 第2回(35.6.4) 京都市水道局, 名神高
 速道路, 京大防災研究所, 参加者243名, 第3回(35.
 10.22) 阪奈道路, 近鉄ドライブウェイ, 参加者93名,
 第4回(35.12.10) セメントおよびコンクリート工場
 (大阪班)37名, (35.12.17) セメントおよびコンク
 リート工場(京都班)113名。
(5) 中国四国支部 支部長 長久程一郎
 1) 役員会 1回
 2) 幹事会 6回
 3) アスファルト舗装の講習会(35.3.9, 広島市において)
 4) 学術講演会 (35.12.10~11, 山口市において), 見学
 会(35.12.12)
 5) 工業高校生の表彰。
(6) 西部支部 支部長 田中 俊徳
 1) 幹事会 (35.4.30~36.2.17) 5回
 2) 見学会 (35.5.20, 若戸橋, 八幡製鉄, 北九州, 有料
 道路, 関門国道トンネル) 参加者234名
 3) 講習会 (35.8.23, 雲仙ユース ホテル) 題目7題, 参
 加人員139名
 4) 講演会および見学会(35.11.11~12), 鹿児島県農村セ
 ンター講堂において) 題目6題, 映画, 見学会, 鹿児
 島県霧島有料道路工事。
 5) 研究発表会 (36.2.24, 九電ビル ホール) 題目16題,
 参加者150名。

(7) 会員年間統計 (35.4.1~36.3.31)

年 月	会 員 正員	特 別 員						名 誉 員	替 助 員	学 生 員	合 計
		1級A	1級B	1級C	2級	3級					
35.3	13 526	17	17	78	110	103		26	30	1 135	15 042
年 月	会 員 正員	特 別 員						名 誉 員	替 助 員	学 生 員	合 計
		特級	1級A	1級B	1級C	2級	3級				
36.3	12 641	9	10	24	104	128	128	31	30	1 141	14 249

議事(2) 昭和35年度決算報告 (35.4.1~36.3.31)

末森専務理事より説明

1. 普通会計

(単位 円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
I 会 費	18 359 407	I 総 務 費	13 089 608
1. 正 員 会 費	12 629 452	1. 用 地 費	500 750
2. 学 生 員 会 費	610 835	2. 報 酬 お よ び 給 与	9 370 792
3. 特 別 員 会 費	4 108 262	3. 需 用 費	1 443 269
4. 過 年 度 収 入	1 010 858	4. 雑 費	1 774 797

(36年1月30日常議員会決定、4月1日より実施)

II 政府補助金	80 000	II 会議費	364 543
1. 研究成果刊行費補助	80 000	1. 諸会議費	364 543
III 諸刊行物収入	6 927 088	III 負担金	461 510
1. コンクリート標準示方書ほか諸刊行物	6 927 088	1. 諸税金	439 010
IV 雑収入	10 895 122	2. 諸会費	22 500
1. 講習および見学会費	1 220 600	IV 支部交付金	1 954 565
2. 会誌および論文集広告部	6 267 000	1. 普通交付金	1 042 980
3. 別冊論文集代	1 168 749	2. 特別交付金	911 585
4. その他雑入	2 238 773	V 事業費	21 562 437
V 繰入金	961 057	1. 会誌発行費	10 097 348
1. 基金利子繰入	796 815	2. 論文集発行費	2 462 749
2. 什器および備品引当金繰入	164 242	3. 別冊論文集発行費	710 758
VI 施設管理費		4. 土木工学論文抄録刊行費	997 370
		5. 諸図書刊行費	3 404 620
		6. 講演および講習会費	1 891 303
		7. 調査および研究費	1 409 988
		8. 諸費	588 301
合 計	37 222 674	合 計	37 557 018

収支差引支出超過額	△334 344	未 払 金	△775 200
会費未収入金	1 865 000	売 掛 金	229 250
図書棚おろし額	2 200 728	差引次年度へ繰越	3 185 434

事業資金(大正以降日本土木史編集資金)

取 入 の 部		支 出 の 部	
1. 前年度繰越金	2 440 681	1. 次年度へ繰越金	2 726 495
2. 本年度受入利子	285 814		
合 計	2 726 495		

基 金

取 入 の 部		支 出 の 部	
1. 前年度繰越金	6 912 106	1. 次年度へ繰越金	6 915 998
2. 本年度受入金	1 000		
3. 繰入指定利子	2 892		
合 計	6 915 998		

貸借対照表

(昭和36年3月31日現在)

借 方		貸 方	
銀行預金	2 698 477	普通会計	3 185 434
振替貯金	251 567	事業資金	2 726 495
現金	29 765	基金	6 915 998
有価証券	10 412 244	引当金	673 166
建物及び諸施設	8 037 241	元入金	9 655 722
什器及び備品	1 618 481	未払金	775 200
会費未収入金	1 865 000	前受金	536 965
売掛金	229 250	仮受金	780 916
棚卸図書	2 200 728	預り金	2 487 665
前払金	104 877		
立替金	289 928		
合 計	27 737 561	合 計	27 737 561

議事(3) 規則第11条第2項特別員の級および会費改正の件

次のとおり末森専務理事より説明、了承された。

35年9月現行		36年1月改正		備 考
級	会 費	級	会 費	
特 級	100 000 円	特 級	100 000 円	据 置
1 級 A	50 000 円	1 級 A	70 000 円	
1 級 B	30 000 円	1 級 B	40 000 円	
1 級 C	10 000 円	1 級 C	20 000 円	
2 級	6 000 円	2 級	10 000 円	
3 級	4 000 円	3 級	5 000 円	

議事(4) 名誉員の推挙

沼田会長より次のとおり紹介があった。

内田 泰郎君 元東北支部長
 内海 清温君 元会長
 近藤 博夫君 元関西支部長
 田淵 寿郎君 元中部支部長
 萩原 俊一君 元理事総務部長
 花井又太郎君 元中部支部長
 原口忠次郎君 元関西支部長
 藤井 真彦君 元理事編集部長
 山崎 匡輔君 元理事総務部長

議事(5) 昭和35年度土木賞

沼田委員長より別掲のごとき受賞理由の報告があり、次の各氏に土木学会賞、土木学会奨励賞が授与された。

土木学会賞:

- 鉄道軌道変位の研究(鉄道技術報告 No. 123)
小野木次郎君
- (1)風と波を考慮した海岸堤防の形状と構造に関する研究
(2)混成防波堤の直立部の滑動と直立部底面に働く揚圧力について
(第7回海岸工学講演会講演集) 永井 莊七郎君

土木学会奨励賞:

- 漂砂の運動機構に関する基礎的研究(第7回海岸工学講演会講演集) 榎木 享君
- 開水路分水工の研究(土木学会論文集第70号・別冊)
室田 明君
- 膨張性地山におけるずい道の土圧と施工法について(土と基礎 3巻5,6号) 野沢 大三君

土木賞受賞者 前列左より永井、小野木氏、後列左より榎木、室田、野沢氏



議事(6) 昭和36年度の新役員紹介

沼田会長より昭和36年5月23日の常議員会で決定した36年度新任役員の紹介があった。

会長講演(別掲)

記念講演(別掲)

以上をもって(12時近く)とどろりなく総会を終了した。

懇 親 会

5月27日、総会ならびに年次学術講演会第一日終了後、名古屋工大よりバスに分乗して会場の豊田ホールへ向かった。参加者は500名の多きに達し、さしもの大会場もびっしり人に埋めつくされた。18時20分、豊田中部支部幹事長の司会で懇親の宴が開かれた。吉川支部長の観迎の挨拶に続き、滝山副会長の紹介により沼田前会長、永田新会長よりそれぞれ辞任と就任の挨拶があり会食に入った。賛助者代表の石村中部建設工業協会々長、田淵名誉員、杉戸市長などのテーブル・スピーチになごやかな談笑が湧き、地元のきれいだころによる華やかな踊りが披露され、一同和気あいあいのうちに懇親の夜を楽しみ、天竺参議院議員の音頭により土木学会の万才を三唱して20時ごろ大成功のうちに終了した。

懇 親 会 会 場



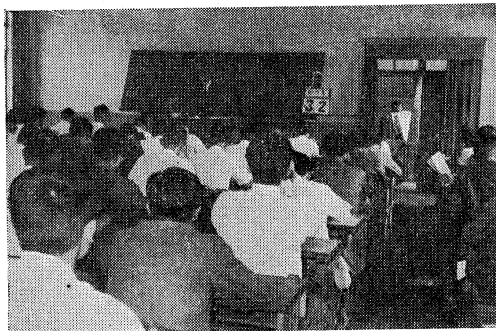
土木学会の発展を祝って万才三唱



第 16 回 年 次 学 術 講 演 会

第1日(5月27日)13時より名古屋工業大学の各教室で各部門一せいに行なわれた。講演総数274編というかつてない多数となり、講演時間20分を確保するためどうしても会場をふや

年次学術講演会会場



ざるを得ず9会場に分れることとなった。参加者には御不便をおかけしたと深く御詫び申上げる次第である。

参加者も登録数だけで1127名、受付に来られなかった方をふくめると1500名を突破したものと想定され、非常に手狭なため立って聴講される会場もあり、準備の手落ちを重ねて御詫びします。配付すべき資料も結局十分にゆきわたらず、支部で予想した参加者の2倍近くがつけかけたという盛況であった。

講演会のあり方にも毎年いろいろな批判がでており、早く解決すべきであると考えている。講演内容は一般報告として63~74ページに、総合講演の要約は29~61ページにそれぞれ掲げているので参照されたい。以下各部門別の講演数、司会者および2日間における聴講者の延人員の概略を示す。とくに総合講演者、司会者、一般報告執筆者の各位には御多忙のところ御迷惑をかけ誠に申訳なく、紙上をかりて厚く御礼申上げる次第です。

第 I 部門 (土質および基礎工学 46)

司会者:越賀正隆,角田敏雄,島田隆夫(聴講者合計390名)

第 II 部門 (橋梁および構造学 60)

司会者:長尾 精,馬場和秋,内田正人,土方大式,小林浩二,後藤明治(聴講者合計410名)

第 III 部門 (水理学および水文学, 港湾および海岸工学 60)

司会者:富永正俊,増田重臣,北野昭夫,宮井 博,栗田亀造,栗栖義明(聴講者合計290名)

第 IV 部門 (測量, 鉄道, 道路, 都市計画, 材料, 施工および土木機械, コンクリート 58)

司会者:船越春雄,松久 勉,上野実昭,河津彦一,河村貞次,郡 道夫(聴講者合計385名)

第 V 部門 (応用力学, 発電水力およびダム, 衛生工学, 河川および砂防 50)

司会者:岡林 稔,山内利彦,藤本 得,酒井清太郎,高橋光,滝淵清実(聴講者合計215名)

総合講演

司会者:荒井利一郎,松浦 聖,四野宮哲郎,加藤 晃(聴講者合計1080名)

47 回通常総会および第 16 回 年次学術講演会参加登録者一覽

	人	員	%
建 設 省	56		5
官 庁 お よ び 公 団	80		7
公 庁 (県 お よ び 市 其 他)	132		12
民 間 会 社	381		34
大 学 等 学 校 関 係	291		26
国 鉄	36		3
学 会 本 部 其 他	151		13
計	1127		100

見学会 (5月29日, 30日)

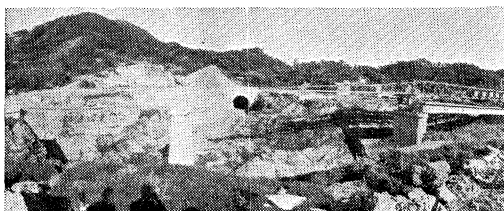
A 班 (静岡コース)

5月29日, 8時名古屋駅発, 東海二号に乗車, 11時35分静岡駅に下車, ただちに観光バスにて登呂遺跡を見学, 日本平にて昼食, 小雨の中を久能山に参詣。清水市, 富士市を経て三保の松原に向う。途中由比の地すべり地帯を車中より見学, 静岡県庁河川課職員より説明を受ける。16時30分, 建設省沼津工事々務所長の出迎えを受け狩野川復旧工事現場に到着, 全工区にわたり見学, 復興工事状況の説明を受ける。18時, 伊豆長岡温泉かつらぎ館に到着, 懇談会を催し親睦をはかる, 同地一泊。5月30日, 8時長岡出発, 三島市を経て箱根十国峠の景勝を賞で, 快適なドライブウェイを走行, 最後の目的地, 新幹線丹那

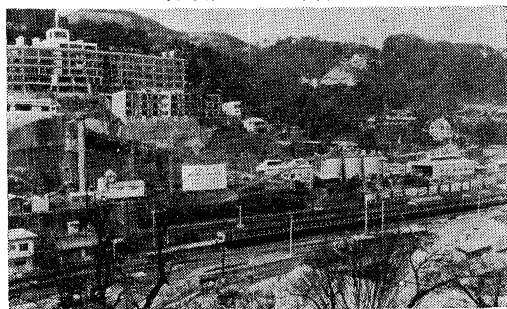
登呂遺跡



狩野川放水路



新丹那トンネル来宮口



トンネル東口(来ノ宮口)に10時に到着、国鉄工事事務所長の工事概要の説明を受け、作業服を着用し、バッテリーカーにて坑内に入り、作業状況を見学、昼食後同地において解散した。なお同見学会において静岡県庁河川課、建設省狩野川建設所、同工事施工の飛島土木KK、KK藤田組、KK勝呂組、国鉄幹線工事局熱海工事事務所、同工事施工のKK間組の方々にて種々御配慮をたまわり有意義な見学会であった。参加者 54名。

B 班(黒四コース)

黒四ダム見学班(43名)は講演会終了日の夜行列車で名古屋を発ち、松本一大町一黒四ダム一黒四発電所一宇奈月温泉と3日間の工程で待望のコースに入った。講演会、懇親会の盛況と同様、このコースも希望者が数倍に達したが現地の事情で倍増もできず、中部地区の会員各位には全面的に遠慮していただいたのを始め、多数の方々の御希望にそえず申し訳ない次第である。

駅頭には連日の活躍でお疲にもかかわらず豊田中部支部幹事長(中部地建企画室長)のお見送りをうけた。列車は交通公社の2カ月前からの特別の手配で一両を独占して、一行45人車中で横になることができ大助かりだ。特に関西電力東海支社内田土木課長の代理で田村水路係長に御案内に加わっていただいたので大いに意を強くした。車中では、早速、北は北海道から南は宮崎、熊本まで話を花を咲かせ、中には睡眠薬代りのウイスキーに、ごきげんの方々もおられる。

翌朝3時44分松本駅着。駅頭には早朝にもかかわらず、関西電力KK黒部川第四水力発電所建設事務所村山土木工事課長、山下土木設計課長両氏のご丁寧なお出迎えをうけ、早速スマートな関電バスにご案内をうけた。なお団長には沼田会長にお願いし快諾を得た。薄暗い中を松本城を後にしてバスは一路信濃

大町に向かう。この道路の舗装は非常によい。これも黒四ダム建設のお蔭だがさらに今通って来た国鉄中央西線も黒四ダムのセメントを三重県の三岐鉄道の藤原から小野田セメントをピストン輸送のため列車のダイヤが入らず黒四の費用で駅中間に信号場を増設する工事を数カ所施工して線路容量の増加を計ったため、結果的には快速な気動車の旅客急行が走り一般旅客も大いに黒四ダムの恩恵をうけていることになる。さてバスは大町駅で国鉄大糸線を横切り、アルプスの胴腹を突き抜けて黒部上流に出るわけだ。大町市の旧市内をはずれた所で第一の見学箇所「高瀬川骨材採集場」に着いた。村山、山下両課長の御懇切な説明が続く。ここは黒四ダムの骨材の大兵站基地だ。骨材の採集製作はここで鹿島建設KKが一手に引きうけている。先着の高橋専務や出張所の八木工事課長のお出迎えをうける。

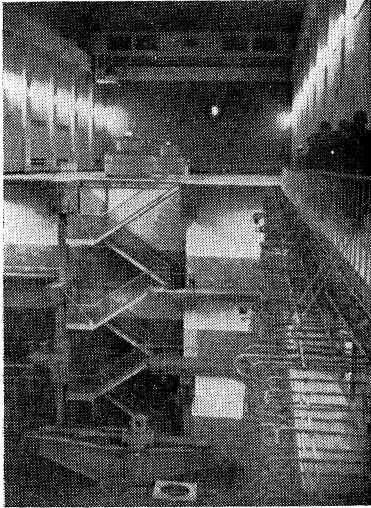
この巨大なプラントで前述の藤原工場より輸送されるセメントの量、28両(15t車)×2列車=840tに対応する砂、砂利が生産され、20kmにおよぶ材料運搬道路として新設された「大町ルート」を通して20tダンプトラック50台が黒四ダムに向かって走り、運搬能力700t/h、最盛時には1日10000tの能力を発揮するといわれる。かくしてこそそのダムの堤体積1600000m³その他に必要な砂690000t、砂利2750000t、計3440000tの数字が確保されるわけだ。さてこの日本一の骨材生産場を後にして、5kmほど上ると展望のよい所に世紀の大工事のベースキャンプである「関西電力KK黒部川第四水力発電所建設事務所」がある。31年7月いち早くこの大工事に突貫した所である。早朝6時なのでそばのクラブハウスに小憩させていただく。ここは外人の監督用のために建てられたものでなかなか立派だ。洋食のマナーもきびしく神妙に立派な御馳走を頂戴した。

8時、安全帽をかぶりいよいよ本コースに入る。小雨模様なので村山課長が山上のダム現場と連絡をとると、上はどしゃ降りとのことで写真のこを気にしつつバスに乗った。大町ルートの明りの部分は麓川に沿って上って行く。約10kmで大町トンネルに入る。延長5.4km断面は巾6.4m、高さ5mの大道路トンネルである。入口より923m付近に大破砕帯があり7カ月も悪戦苦闘したことは有名で、この大町ルートが開通しないために立山越えでポッカさん(強力)が人肩で建設資材を運んでいるのを見たことを思い出し夢のような気がする。そしてこの大町ルートが観光ルートとなり遊覧バスの陸続する将来も近いわけだ。このような説明を聞きながらトンネルを抜けると幸いにも雨はほとんどなく世期の黒四ダムが立山連峯を背にして、すでに湛水した偉容を見せてくれる。一行のカメラのシャッターが各所で切られ出して忙しい。間組の松垣取締役工事部長始

すでに湛水を始めた黒四ダム



15.3万kWの発電を開始した黒四発電所

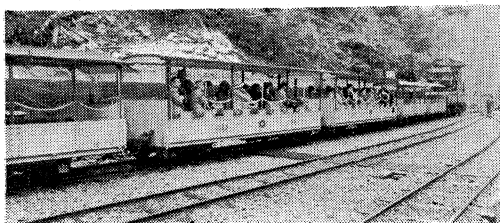


120m、打設終り 153 000 kW の発電を開始している。完成の暁は有効容量 1.5 億 m³ の大人造湖を造り、258 000 kW の出力をうる。秘境にかくも巨大なダムを築造した最近の土木工学の進歩に感嘆し、関西電力の技術陣に敬意を表する。ダムコンクリート打設には 25t×2.10t、9t のケーブルクレーンが使用され、パイプレーターをつけたブルドーザーが蟻のように駆使されている。

1 時間におたる見学を終え発電所に向って黒部ルートにもぐる。このトンネルも発電所や水路建設のための骨材、資材運搬用の道路で巾員 4.4m、高さ 2m、大町ルートより 2m 狭い。関電バスはこの中を進んで行き、関電の両課長の御説明は熱心に続く。水路トンネルはこのルートに平行し断面は 4.8m、厚 0.6m の円形、10km 走り作廊につく。標高 1 320m でインクラインの上部停車場に当たるわけで、下部停車場は発電所になる。ここで沼田団長より関電の両課長始め関係各位に丁寧な謝辞があった。インクラインで 800m 降りると標高 871m に下部停車場があり、ここより横に内装したトンネルというより、ビルの廊下を思わせるような通路を歩いて 11 時発電所の会議室に案内され、発電所建設の責任者白髭電気課長のお迎えを受ける。

発電所は巾 21m、長さ 103m、高さ 34m で全部が地下に入っている。白髭課長の御案内で発電所内を昇降左右し見てまわる。床も壁も立派に化粧してあるのでちょうどビル内を歩きまわっている感じで地中にあるのを忘れる。エレベーターで頂部へ出るとわずかに引出口に明りがあるのみで全部地下式なのは世界でも珍しいとのことだ。指令室にはオペレーターがただ一人電源盤のランプを見ている。現在 15.3 万 kW やがて 25.8 万 kW の世界にはこる大発電所の指令室になるわけだ。会議室で昼食をとり仙人谷まで歩く。仙人谷ダムより見る半月峡等の奥

関西電力黒部鉄道樺平駅より宇奈月温泉に向う一行



め各位のお出迎えをうける。標高 1 500m の展望台に立ち関電および、間組の各位より説明をうけ、活発な質疑がつづく。

型式はアーチ式ドーム越流型コンクリート造りで、高さ 186m、堤頂巾 8m、堤頂長 489m、敷巾 39.7m、堤体積 1 360 000 m³、基礎岩盤はカウ岩である。現在高さ

黒部の溪谷美はさすがに天下にはこるだけあってただ感嘆するのみ。大衆を寄せつけなかったこの雄大な溪谷にも発電所建設後は観光客が続々と押しかけることだろう。

13時25分仙人谷発の専用軌道で標高 800m の樺平エレベーター上部着、606m の下部まで直降する。ここでは早くも佐藤工業施工で新黒部川第三 54 600 kW にいどんでいる。

樺平は関西電力の黒部鉄道の終点だ。宇奈月まで 20.2 km 正式免許をうけている私鉄だが運賃は 210 円で日本一高い。電車は国立公園黒部溪谷に沿って走り 16 時 10 分宇奈月到着。駅には佐藤工業宮島富山支店長が旅館の女中総出で迎えにきて頂く。温泉情緒豊かだ。宇奈月第一の延楽に迎えられる。黒部溪谷を眼下に見おろすガラス張りの豪華な浴槽に沈み、雄大な黒四の発電規模の感傷にひたる。

18 時より大広間において懇親会に入る。幹事より当延楽は 2 カ月前から宮島支店長に御手配頂き、本日は新婚以外はわれわれ会員のみだから部屋を間違えないようになどのくださった理會のことばのち、沼田団長立って丁寧な御挨拶があり、阿部理事の乾杯で宴に入った。北陸芸者の親身のサービスで宴は続き、ますますなごやかになって行く。芸者のお座付き、宇奈月小唄、越中小原節などの手踊りが賑やかになり広げられ、一行の自己紹介やら、お国自慢が飛び出し、あちらこちらで盃のやりとりが始り、宴はいつ果てるとも知れなかったが 21 時半一応八十島理事の発声で土木学会の万才を三唱した。

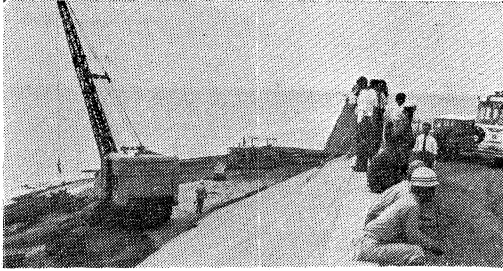
翌30日は朝食後解散、好天気で朝日に輝く立山連峯は美しい。宇奈月を降り北陸線に出て、北海道、東北の方は日本海号で、九州、中国、四国、関西の方は立山号で、東京組では数人ほど沼田会長のお伴をして糸魚川より大糸線を上ってアルプスの連峯を眺め、中央東線経由のコースで発った。

本当に有意義な見学会であり、なかなか来られないコースであった。このような見学会ができたことについて、関西電力の本社、東海支社、現地の黒四建設事務所、御協力を賜った鹿島建設 K K、K K 間組、佐藤工業 K K、列車の特別手配を頂いた交通公社中部支社、さらに見学コースの計画、幹事を頂いた中部支部 長坂幹事など関係各位に深い謝意を表する次第である。(関・記)

C 班 (伊勢志摩コース)

5月29日8時、一向60名はテレビ塔に近い栄町文化会館前を近鉄御自慢の観光バスで出発、志摩半島に向かって見学の途につく。伊勢湾台風復旧工事現場の一部である弥富から長島にかけての護岸工事を2時間におたり説明をうけながら詳細に見学、二度とあの惨害をくり返さないとの決意にもえた慎重な施工ぶりである。現場の方々の労苦をねぎらいながらバスに乗り国道を南下、富田浜付近の海岸堤防をかねた名四国道工事現場を見学、一部完成した道路を見ながら四日市へ向かう。1級国道1号線のバイパスとして延長 36.4 km、38年4月に完成の予定で着々と工事を急いでいる。11時30分ころ四日市に入り、ただちに港へ、ここで三重県四日市港務局の方から有名な四日市石油コンビナートの状況、港の拡張計画などを伺い日本合成ゴム四日市工場へ12時すぎ到着。昼食をとりながら近代石油化学の粋を集めた合成ゴム製造過程について説明をうけ映画を見せ頂く。10万坪の広大な敷地には人がかげもまばらで、球形のタンクが光りまことにドライな風景である。250名くらいで3交代とのこと、完全にオートメ化されている。火気厳禁、撮影禁止など規則も徹底したものでカメラをもった会員は思わず首をすくめる。14時近く工場を辞し近鉄名古屋線に沿って南下、坦々た

長島町松蔭地区建設省災害復旧工事現場にて
木曾川河口付近護岸コンクリート（延長約 8 km の尖端部分）



四日市市富田浜名四国道富田浜付近工事現場
海岸堤防と道路とを兼用している



る舗装道路はまことに快適、思わず舟をこいでいるうちに1時間たらずで津へ到着。小憩後いよいよ伊勢市へ……。外宮、内宮をかけ足で参拝、ここでも台風被害いちじるしく、荘厳な神域もかなり荒れている所が目につく。これより美しい伊勢湾の風景を十分に観賞しながら予定どおり17時ころ鳥羽の宿舎「待月楼」へ入った。旅装をといへ息入れ大広間の懇親会へのぞむ。土方近鉄土木部長の挨拶に団長の桜井神戸大教授が丁寧な謝辞を述べ宴にうつる。舟形のいけすから取出された伊勢えび、鯛などを鮮かに料理し、運び込まれたさぎえ料理に火がともされ座敷の明りを消す……といった演出の名物「大名料理」のもてなしに一同大喜び、鳥羽の月をさかになごやかな歓談に夜のふけるのも忘れるほどであった。翌30日も快晴、9時に宿舎をあとにし波切の大王崎灯台へ向かう。10時半、予定をかえて和具より英虞湾を遊覧船で賢島へ渡った。舟上で真珠貝の即売があり、何となく大分買わされていたようである。賢島から再びバスで磯部へ着き昼食、鳥羽へ引返す。前夜の宿から荷物を引とりミキモト真珠で名高いパール・アイランド、水族館などを見物、16時ごろ無事に近鉄宇治山田駅前で解散、それぞれ帰路へついた。本見学会にあたり御協力いただいた各位の御厚意に対し紙上より厚く御礼申上げる次第です。

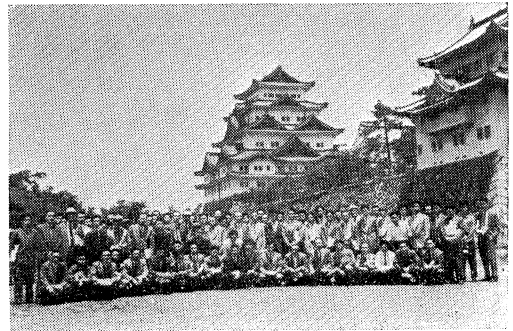
鳥羽のパール アイランド 御本幸吉翁の像の前で記念撮影



D 班（名古屋市内コース）

定刻9時、集合地鶴舞公園を出発（104名）。本日、最初の見学会所国鉄中央線立体化工事現場へと中央線沿いに向かう。車中より同線線増工について国鉄岐阜工務局 中島技師より説明

名古屋城にて記念撮影



を受ける。国道19号線と東海道線、中央線、名古屋鉄道が立体交差する新橋跨線国道橋に到着する。早速、跨線国道橋の改築工事を建設省名古屋国道工務事務所 石田工務課長より説明を受ける。つづいてこの橋梁の付近に新しく誕生する国鉄、名鉄、地下鉄を一本化した金山総合駅の構想をそれぞれの関係者から説明を受けた。その後、バスは国道19号線を北上し市民より100m道路と親しみの呼ばれ当市が防災兼公園道路として跨る広路2号線を経てNHK、CBC、THKの3局が共用するテレビ塔下に着く、ここで公園道路、周囲の近代高層建築と地上190m、銀白色に輝くテレビ塔の雄姿とがよくマッチした都市美観をしばしば眺めつつ小憩をとる。

こより繁華街路を東部丘陵地帯へ車を進め、モデル住宅団地自由ヶ丘から墓苑平和公園の車中展望をつづける。その間当市計画局の山田、小川両係長より全国的に有名な都市計画の概要説明を受け、その規模の雄大さに絶賛した。新緑に燃える車窓の眺めを觀賞するうちに、覚王山トンネルのシールド工事現場へ着く。都市の急速発展にともなう交通緩和の一策として高速度鉄道建設が昭和29年8月より着手、すでに国鉄名古屋駅より池下間6kmにわたり営業。まだまだ全体計画からはほんの一部分に過ぎないが引続き鋭音高く建設を進める状況を伊藤建設部長、高見工務事務所長より説明を受けた。見学会、午前最終コース名古屋城へと急ぐ。この城は昭和20年5月戦災により焼失34年9月全く外観を同じくして、復興期に天守閣は慶長の昔をしのばせてくれる。しかし内部は面目を一新、エレベーターを設備し、近代建築の粋を集めており、この天守閣より眺めた青年都市の発展を象徴するかのよう感じさせた。城内で強行軍によりすいた腹を満たし元気回復、本日午後の見学会所である名古屋港へ。到着後、ただちに遊覧船「くさなぎ丸」に乗船バスガイド嬢と五色のテープを交え、しばし海上の人と成る。午前中からの驟雨は幸い晴上ったが、強い風は静まらず平常は鏡のごとく静穏で自慢の港内も風速11.5m/secの影響で白い三角波が立ち、1000HP以上のサンドポンプ船が20隻、総馬力45000HPを集めて1日10000m²（約3000坪）の土地造成を実施し、数年後には、1950万m²（590万坪）を擁する工業港を建設中の現場へは行けず、予定コースを変更せざるを得なかったことは残念であった。しかし離岸と同時に目の前にくり広げられる整備のなった泊地、航路、繫留ブイ、埠頭、防災などの施設について名古屋港管理組合 粟田工務課長より、船内マイクを通じて約1時間あまり、ユーモアを交えた詳細な説明を受け、躍進を続ける名古屋港の新しい認識を得つつ「別れのワルツ」の迎える中を下船する。ここに見学会所をどこほりなく完了再び車中の人となって名古屋駅へと急ぎ16時到着。天候には恵れなかったが、今日の有意義な見学会を無事終了することができた。（鳥居・記）